

http://www.engineer.or.jp/c_dpt/nucrad/

原子力・放射線部会

会報



JT60SA 本体（web 見学会）

1. 部会長挨拶

和田 隆太郎 P. 2

2. 部会活動状況と事例紹介

- ① 活動全般 P. 2
- ② 合格者歓迎会 P. 3
- ③ 部会会合の回数 P. 3
- ④ 講演会・見学会 P. 3

3. 部会幹事・S 幹事の紹介

P. 4

4. 2025 年度全体会議

P. 6

5. 活動トピック

- ① 学会出展報告 P. 8
- ② 大学への技術士制度の説明会 P. 8
- ③ 保健物理学会との合同セッション P. 9
- ④ Web 見学会 P. 9

6. 技術士試験合格者の紹介

P. 10

7. 会長表彰受賞報告、名誉会員証の受賞

P.13

8. 統括本部委員会委員長就任の抱負

P.14

1. 部会長挨拶

～ 共創 ～ 4 期目の部会長を迎えるにあたって

和田 隆太郎

【2019 年から原子力・放射線部会長】

当部会は、2024 年度に設立 20 年を迎え、昨年 6 月 21 日には記念式典等を開催しました。早いもので、それからもう 1 年以上が経過しましたが、私は 2019 年 7 月の最初の就任から既に 6 年が経過し、2025 年 7 月より 4 期目の部会長を迎えました。4 期目を集大成にしたいと考えています。



今回の部会報のテーマ「共創」は勝田幹事のご発案ですが、新しい価値を「共」に「創」り上げていくという意味です。ご存じの通り、当部会は原子力・放射線分野では、展示ブース・広告の出展等を進めています。昨年 12 月には日本保健物理学会(大阪大学)で合同シンポジウムを開催し、技術士制度の紹介やパネルディスカッションを行いました。並行して展示ブースの初出展を行い、多くの学会員に会場頂きました。日本原子力学会は展示ブースの出展を継続しています。2025 年は日本原子力学会が 9 月(北九州)、日本保健物理学会が 12 月(水戸)で学会が開催されるため、近隣にご在住の皆様には奮って展示ブース説明員へのご参加をお願いします。一方、昨年 9 月の原子力委員会第 28 回定例会議でのご推奨を受けて、更に広い範囲の原子力・放射線関係の学協会ホームページ(HP)での紹介記事掲載をお願いする活動を継続しています。無料の広告掲載のため難しい側面もありますが、現時点で日本核医学学会、日本放射線技術学会、日本放射化学会の HP での紹介が実現しました。有料の広告になるかも知れませんが、日本医学物理学会、日本核物質管理学会、日本アイソトープ協会、日本診療放射線技師会などにも紹介の範囲を拡げるべく、現在も活動を継続中です。これらの活動により、技術士の認知度を向上し、技術士(会員)数を増やしていき

いと考えています。

一方で、2023 年度より部会組織は統括本部に属することとなり、地域本部や県支部の枠を超えた全国展開の横串の機能が期待されています。現状ではコロナ禍の数少ない正の効果である web 講演会の普及により、地域在住の会員の例会講演会への参加数は飛躍的に増えています。しかしながら、現状では一方向性の講演配信を視聴するだけとのイメージが強く、双方向性が確保できていないと言いつつ、距離の壁(というよりも旅費の壁)を超えて双方向性を確保するには、遠隔地間イベントのテーマの創出やオンライン会議システムの卓越した活用術の創出が必要不可欠です。

さらに、近年の日本技術士会では 21 部門(19 部会)の技術分野の枠を超えた活動が期待されています。歴史の長い部会同士では定期的な例会講演会を共催するという活動も見受けられますが、当部会の場合は受け身で待っていても共催のお声が掛かることは期待できません。まず当部会員が他部会の行事に積極的に参加し、お互いが刻み合うことで、共通の同じ価値を共有する必要があります。多くの部会員の想いが増えれば、その結果として分野間イベントのテーマを創出する機会が生じる筈です。得意な専門技術と異なる他分野の専門的な話を聞いて理解するのは大変ですが、当部会員各位にはこれが日本技術士会の存在価値であり、神髄(真髄)であることをご理解頂き、日々のご努力をお願いする次第です。

上記した紹介記事掲載(広告)の活動や地域間の双方向性の確保および他分野専門家との価値の共有はいずれも容易な課題ではありませんが、皆様の知恵を結集し、共創により一歩でも前に進めることができれば幸甚です。

皆様には、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2. 部会活動状況と事例紹介

本部への 2024 年度の活動報告内容を以下に記す。

① 活動全般

2024 年度の原子力・放射線部会では、予定通り活動を推進することができた。

(1) 年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

全体会議を 6 月 21 日に Web 開催し、2023 年度の活動を報告するとともに、2024 年度の活動方針を説明、意見交換を行った。幹事会を面着及び Web で 6 回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方、企画内容、対応方針等について議論した。

(2) 講演会等

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目として、「使用済燃料の中間貯蔵の状況」、「宇宙における放射線の影響と原子力利用」などをテーマに面着及び Web 併用(ハイブリッド)で計 6 回開催した。また、6 月 21 日の全体会議に合わせて、部会設立 20 年記念特別講演会、記念式典及び記念祝賀会を開催した。特別講演会では上坂原子力委員会委員長を講師に招き「原子力政策と技術士の役割向上」と題し、人材育成の課題等について解説、提言いただいた。

(3) 見学会

1 月 17 日に理化学研究所放射光科学研究センター大型放射光施設「SPring-8」での撮影会を実施した。その動画を編集し、9 月 13 日に Web 見学会を開催した。44 人が参加し、「SPring-8」の設備の概要と放射光を利用した様々な研究について知見を深めることができた。

(4) その他

技術士制度の学生への認知度向上と受験奨励のために、原子力・放射線関係の学科、研究機関のある 6 大学に対して、技術士会と原子力・放射線部会を紹介する説明会を実施した。また、同様の目的で昨年に引き続き日本原子力学会春の年会に出展した。多くの来場者を迎え好評であり、多くの学生や若い技術者の受験意欲を確認でき

た。出展の対応を通じ、コロナ禍で近年低調であった部会員同士の交流も図ることができた。また、12 月の保健物理学会にも出展、合同セッションを開催、部会の活動状況などを紹介した。従来やや手薄であった放射線利用分野の技術者、研究者にも技術士資格をアピールすることができた。今後の受験者数の向上が期待される。さらに、原子力、放射線に関する正しい知識の普及のため、原子力学会が進めている学校教科書のレビュー活動に協力し、コメント、提言を取りまとめ報告書として発刊した。

② 合格者歓迎会

日時: 2024 年 4 月 26 日午後

開催方法: 機械振興会館及び Web

合格者参加者数: 4 名

③ 部会会合の回数

役員会: 6 回

講演会・見学会: 7 回

④ 講演会・見学会

以下の通り 7 回実施した。講演名部分が詳細報告へのリンクとなっている。延べ 358 名に聴講、見学いただくことができた。

第 91 回技術士のタベ	
日時	2024 年 4 月 26 日
講演名	核燃料サイクルの確立と高速炉燃料の再処理技術
講演者所属	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 再処理技術開発試験部 部長
講演者	小藤 博英
参加者数	74
Web 配信	有
資料	

第 92 回技術士のタベ	
日時	2024 年 6 月 21 日
講演名	原子力政策と技術士の役割の向上
講演者所属	原子力委員会委員長
講演者	上坂 充
参加者数	64
Web 配信	有
資料、詳細技術報告	

第 93 回技術士のタベ	
日時	2024 年 8 月 23 日
講演名	放射線計測の概要
講演者所属	日本アイソトープ協会 アイソトープ部 放射線源課 課長
講演者	脇谷 雄一郎
参加者数	60
Web 配信	有
詳細技術報告	

第 94 回技術士のタベ	
日時	2024 年 10 月 25 日
講演名	次世代革新炉の開発状況と国際動向
講演者所属	エネルギー総合工学研究所 原子力技術センター 原子力グループ 部長
講演者	都筑 和泰
参加者数	63
Web 配信	有
資料、詳細技術報告	

第 95 回技術士のタベ	
日時	2024 年 12 月 13 日
講演名	宇宙における放射線の影響と原子力利用
講演者所属	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙探査イノベーションハブ 副ハブ長
講演者	川崎 治
参加者数	47
Web 配信	有
資料	

第 96 回技術士のタベ	
日時	2025 年 2 月 21 日
講演名	使用済燃料の中間貯蔵の状況
講演者所属	電気事業連合会 原子力部部長
講演者	市原 貴之
参加者数	50
Web 配信	有
資料、詳細技術報告	

見学会	
日時	2024 年 9 月 13 日
見学場所	理化学研究所 放射光科学研究センター 大型放射光施設「SPring-8」(Web 見学会)
参加者数	35
Web 配信	有
詳細技術報告	

3. 部会幹事・S 幹事の紹介

3. 1 新任幹事・S 幹事

この度、副部会長を拝命しました

副部会長: 佐藤 俊文

【佐藤俊 技術士事務所、2005 年度合格】

このたび総務広報班の副部会長を拝命した佐藤俊文と申します。40 年間勤務した東芝グループを昨年 3 月で退職し、技術士の個人事務所を立ち上げました。現在は主に原子力関係の業務を受注しています。



選択科目は「原子炉システムの設計及び建設」ですが、放射線計測や核計装の設計開発を専門としており、放射線取扱主任者、衛生工学衛生管理者の専任経験があります。また、輸出に関連した欧州規制や CE マーキング対応、原子力に関連した IEC 規格や米国規制対応も業務としています。

総務広報班の前任者は驚くほどアクティブな方で、とても広範囲な仕事に対応されていたと記憶しています。当方では後継者として力不足の点もありますが、原子力学会や保健物理学会との連携や展示会、大学への技術士制度の説明会などの対応により技術士の認知度を向上し、また、仲間を増やしていきたいと思っています。

新任の副部会長として微力ではありますが、原子力・放射線部門のさらなる発展に取り組み、また、部会を通して皆様のお役に立てればと思いますので、よろしくお願いいたします。

人材育成に努めたいと思います

幹事: 千々松 正和

【安藤ハザマ、2024 年度合格】

2025 年 3 月に原子力・放射線部門の技術士 2 次試験に合格し、技術士となりました千々松と申します。選択科目は、核燃料サイクル及び放射性廃棄物の処理・処分



です。建設会社である安藤ハザマにて放射性廃棄物の処分に関する研究開発に従事しています。

安藤ハザマは、建設会社ですので、技術士取得者の大半が建設部門であり、原子力・放射線部門では初の取得者となりました。若手が、原子力・放射線部門での取得を目指して頑張っているのも、喚起するために取得しました。

これまで放射性廃棄物処分に関する研究開発を長く実施してきましたが、建設会社ということもあり、あくまで処分場の設計、施工に関することが主でした。技術士受験に際し、原子力や放射線に関する基本的なことを一から勉強せざるを得なかったところも多々あり非常に苦労しましたが、最近は革新軽水炉の新設や核融合炉の実現に向けての業務も実施するようになっており、その点で、勉強したことは非常に役立っています。年代的に人材の育成に注力しないといけないので、業界全体に対して貢献できるように努めていきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

企画班幹事として取り組みます

幹事: 森 浩一

【栗田工業、2014 年度合格】

この度、日本技術士会 原子力・放射線部会の企画班幹事を拝命いたしました、森 浩一(もり こういち)と申します。本会の一員として、皆様とともに活動できることを大変光栄に存じます。



私は研究開発職に従事しており、分離工学、特に吸着・イオン交換を専門としています。原子力分野との関わりでは放射性物質を含む水を処理するための吸着剤を開発しました。これまでの経験で培った知見を活かし、部会活動に貢献できればと考えております。

さて、この度、私は部会の企画班を拝命し、皆様が楽しみにされている見学会等の企画・運営を担当

当させていただくことになりました。原子力・放射線技術は、エネルギー、医療、農業等、多岐にわたる分野で社会を支えています、その最前線で何が起こっているのか、どのような技術が生まれようとしているのかを直接肌で感じる機会は、技術者にとって何よりの刺激になると信じております。

今後は、皆様の知的好奇心を満たせるような、魅力的な見学会を企画してまいりたいと考えております。また、見学会や講演会が単なる施設訪問や聴講に留まらず、参加された部会員同士の活発な技術交流やネットワーキングの場となるよう、運営面でも工夫できればと存じます。

部会の活性化と、原子力・放射線部会の持続的な発展に微力ながら貢献できるよう、誠心誠意努めてまいり所存です。皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。また、見学会等の企画に関するご意見やご要望がございましたら、ぜひお気軽にお声がけください。

幹事として頑張ります

幹事：坂口 英之

【北陸電力、2015 年度合格】

2016 年 3 月に原子力・放射線部門の技術士となりました坂口と申します。現在、北陸電力株式会社に勤務しており、石川県にある志賀原子力発電所 2 号機の再稼働に向けて、国の審査対応として安全解析等に從事しております。



この業務は、福島第一原子力発電所の事故後の安全性向上のための取り組みであり、もう携わって 10 年近くになります。

福島第一の事故以前は、原子燃料関係の業務を 10 年近く従事していました。

具体的には、志賀原子力発電所 1、2 号機の原子炉に入れる燃料集合体の配置の検討や、原子炉の起動・停止の立ち合い、燃料の燃焼管理、定期点検

における燃料の点検などを行っておりました。

また、六ヶ所村の日本原燃株式会社にも 3 年間出向して、濃縮、再処理、埋設、廃棄物管理に広く携わりましたので、原子燃料サイクル全体を俯瞰して見ることができ、その必要性・重要性をよく理解しています。

福島第一の事故の際には、短期間ではありましたが、除染、避難退域時検査等にも従事いたしました。当時は、屋外が放射線管理区域の如く、ポケット線量計を持って、放射線防護服を着て、汚染が広がらないよう細心の注意を払っていたのが、とても印象に残っており、もうこのような事故は二度と起こしてはならないと肝に銘じております。

福島第一の事故以降、国内外の安全対策、新知見をよく調査した上で、採用できる限りの安全対策を志賀原子力発電所に施してきました。今後、安全を最優先に再稼働を図りたいと考えております。

最後になりましたが、技術士会では、普段の業務では触れることのないテーマの講演を聞くことができたり、施設見学をさせて頂いたり、新たな学びの機会をいただき、非常に感謝しております。これまで、講演会や見学会でお世話になってきましたので、今後、新幹事として微力ながらお手伝いさせていただきます。皆様、今後ともよろしくお願い致します。

自衛官と技術士としての志

S 幹事：松嶋 貴之

【陸上自衛隊化学学校、2024 年度合格】

陸上自衛隊化学学校の松嶋貴之と申します。化学学校は、大量破壊兵器から部隊・隊員を防護し、その影響を局限する専門部隊である化学科部隊



に対する教育及び研究を主な任務とする機関です。化学科部隊・化学学校は、地下鉄サリン事件、JCO 臨界事故そして福島第一原子力発電所事故で活動を行った実績があるので、もしかすると、ご存知の

方もいらっしゃるかもしれませんが。私は、大量破壊兵器の中でも核・放射線の分野を専門としており、放射線防護や原子力防災の分野でキャリアを積み上げてきました。少し横道に逸れますが、私は小さい頃から物理学や天文学が好きで、小学生の時には、望遠鏡を片手に夜な夜な天体観測をしていました。高校もガチガチの理系で、将来は大学等での研究の道に進みたいと考えていましたが、縁あって陸上自衛官となり、今は日本の防衛のための研究開発の仕事をしています。そんな中、令和元年から3年間、内閣府(原子力防災)に出向し、原子力総合防災訓練を担当したことが、私の研究者・技術者としての意識を強く刺激し、自衛官として国防に貢献しながら、日本の原子力防災能力の向上にも貢献したいという新たな目標の確立に至り、技術士を目指すことを決意しました。技術士の立場で、こうして自己表現できていることを心からうれしく思っております。この志を具現すべく、S幹事として日本の原子力防災能力の向上に積極的に取り組んで行く所存です。皆様と協力しながら、緊急時を含めたあらゆる場面において、日本の放射線防護能力及び原子力防災能力を高めるとともに、その実力を国内外に発信していくことにも尽力して参りたいと思います。自分に与えられた命を日本の防衛と原子力防災のために使い切ることを道標として、自学研鑽により自らの資質(コンピテンシー)を磨きつつ、原子力・放射線に関する知識を高めて参ります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

3. 2 幹事の異動

S 幹事として

S 幹事: 山田 基幸

【原子力発電環境整備機構 2005 年度合格】

2016年度から幹事として部会運営に協力させていただいておりましたが、近年においては業務の都合から十分な協力が行えず、ご迷惑をおかけしてきていることから、今年度からのS幹事



への異動を申し出て、ご了承いただきました。引き続き、よろしくお願いいたします。さて、2018年から始めている大学説明は今年で8シーズン目になりましたが、私自身は主にこの活動に携わってきておりました。この活動は毎年4月頃に大学院新入生等を対象として大学側で開催されるガイダンスに少しの時間を頂戴して、また場合によっては大学側でわざわざ時間を確保いただき学生を集めてくださったうえで、部会員から技術士制度等を説明している活動であり、これまでの対象学生数は正確には把握できていませんが、1000人超にのぼります。原子力・放射線部門は、1990年代終わりごろから続出した原子力関係の不祥事や事故を背景として、「技術者一人一人が組織の論理に埋没せず、常に社会や技術のあるべき姿を認識し、意識や技術を常に向上させていく仕組みが必要」「社会から信頼される個人としての技術者の存在が不可欠」との、社会からの大きな期待と使命をもって誕生した成り立ちがあります。このような背景だけですと学生には重荷に感じるかもしれませんが、説明される部会員からは、学生自身の技術者キャリアを今後どのように構築するのかについての刺激も与えてくださっていて、即効的ではないですが、将来少しでも良い効果が出ることを期待しています。これからの活動にもできる範囲で協力していきたいと考えております。また、これまで説明できていない大学や高専等、また放射線関係への新規開拓に関連しまして、「説明協力できるよ」や「紹介できるよ」等について、部会員のみ

なさまからの情報をお寄せいただければと思います
(myamada@numo.or.jp)。こちらについても引き続き
どうぞよろしくお願いいたします。

●部会幹事ってどんなことしているの？

年 6 回(1回／隔月)開催している幹事会の様子を紹介するコーナーです。代表的なものは CPD 企画の立案、実行までのフォローです。講演会や見学会のテーマを何にしようか、その講師をどなたに、開催地をどちらにするか。他部会の方を含め、なるべく多くの会員に参加してもらうための施策の検討、当日の役割分担などを決めています。

また、別の班では、全体会議(6 月開催)で決めた方針に沿って、会員の技術士活動をサポートするために役割分担しながら作業を行っています。見学会の立案のほか、技術士を PR するための大学説明会や学会の展示などの企画運営もそのひとつです。部会のメンバーにとどまらず外部の方々とのパイプをつくらることができるチャンスにもなります。

これらの検討経緯や、検討資料は適時部会ホームページに掲載していますので、お時間あるとき、ぜひご覧いただければと思います。

(⇒こちら)

また幹事に興味のある方もぜひご連絡やご意見ください。

(文責: 幹事 勝田 昌治)

4. 2025 年度全体会議

第 21 回となる全体会議は以下のとおり開催した。

日時:2025 年 6 月 20 日 14:30～15:30

場所:機械振興会館(211)リアル+オンライン会議

内容:

- (1)令和 6(2024)年度の活動実績報告
- (2)第1号議案 令和 6(2024)年度の決算報告について
- (3)第 2 号議案 令和 7(2025)年度事業計画および予算(案)について

資料:それぞれのリンク先に保管している。

・令和 6(2024)年度活動報告

・第 1 号議案資料-2024 年度会計の決算報告

・第 2 号議案資料 1-2025 年度の事業計画案

・第 2 号議案資料 2-2025 年度の予算案

・議事録

全体会議で承認された 2025 年度事業計画案から主なものをピックアップした。

2024年度の活動実績と課題



公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

1. Web例会講演会を6回開催。Live視聴者は延べ291人。
2. 講演会見学会開催補助費A予算は、約41千円を使用。
3. 9/13にWeb見学会(SPring-8)のweb放映講演会を開催。web参加者は35人。
4. 対外活動B予算約540千円を確保+使用(大学説明、学会ブース出展)
 - a. 大学説明会は、相手先のご要求に応じてWeb/リアル開催で実施。
 - b. 原子力学会ブースは2024年9/11-13(東北大)にリアル出展。
 - c. 保物学会ブース(新規)は2024年12/16-18(阪大)にリアル出展。
5. 部会報は、2024年8月27日に発行。
6. 部会C予算は収入407千円(例会参加料等)支出325千円。
7. Web見学会取材向けのGoProカメラ用静音マイク(DJI Mic,約49千円)を導入

【議論ポイント】

- I. 例会講演会のハイブリッド(リアル & Web)開催が定着。
 - ⇒リアル会場での当日会場対応要員の負荷が逼迫。在京幹事の増員が必要。
- II. Web見学会は編集と取材先との交渉が大変だったがVTR放映を完遂。
 - ⇒編集が大変な理由の1つ(音声編集)は、静音マイク導入で解消の見通し。
- III. 学会ブース出展は保物学会を追加。CPD覧書の行事を復刻中。
 - ⇒協賛依頼に対して、今回はシンポジウムのプログラムに広告掲載の予定。

Teamsを利用したハイブリッド例会講演会

- Teamsを利用したハイブリッド(HB)例会講演会の開催は、配信技術の向上により、次第に練度が向上。
- 最近では、以下の点の改良により、質疑応答時の双方向性も概ね確保できるようになった。
 - 部会専用のTeams ID(with OneDrive)と、PCを整備
 - 211会議室のノイズキャンセリング集合マイク(Jabra) & カメラの高度利用
⇒集合マイク・指向性マイクの併用で音質の良いハイブリッド環境へ。
 - 機械振興会館会議室の多くは、有線/無線LANが導入され、USB接続のWeb会議等開催時の音響設備(アンプシステム)が設置

双方向性ハイブリッド例会講演会開催に向け、用意周到に準備
 > 環境の整った会議室の探索と確保
 > 機材とマニュアルの整備 ⇒ 輪番制の実現へ

本部の対外活動促進費の確保に伴う
大学説明、学会ブース出展

- 大学説明は、
 - 大学説明は、認知度向上と勧誘活動の原点
 - 2024年度は、京大、福井大、九大、茨城大、近畿大等で実施。
 - 可能ならば放射線分野の大学・学部を対象に加えたい
 - 但し、相手(大学側)の意向確認(ご要求)とその高揚が重要
- 学会ブース出展は、
 - 2024年秋の原子力学会ブース出展(9/11-13、東北大、来訪者:約190名)
 - 2024年12月の保物学会ブース出展(12/16-18、阪大、来訪者:68名)
 - 液晶TVの運用も、定期的になった(板についてきた)
- 今後、部会員各位には、
 - 関係する大学説明への積極的な参加をお願いしたい。
 - 近隣の学会ブース説明員への積極的な参加をお願いしたい。
 - > 次回の原子力学会ブース出展は、春の大会(熊本市、3/11-13)
 - > 次回の保物学会ブース出展は、第58回研究発表会(水戸市、12/18-20)

2025年度の基本活動方針(案)

- 例会講演会のハイブリッド(HB)開催
 - 例会講演会の全てはハイブリッド開催とする。
 - 環境と機材と人材を用意周到に準備する。
- リアル & Web見学会の開催
 - 条件に見合った訪問先を調査・選定して訪問する。
 - 省力化・容易化のために導入した機材を十分に活用する。
- 対外説明は、相手側事情に整合して活動
 - 大学説明会は、WEB/リアル説明を開催予定。
 - 原子力学会ブース出展は、春の大会(3/11、熊本市)でリアル出展予定
 - 保物学会ブース出展は、第58回研究発表会(12/16、水戸市)でリアル出展予定
- 部会報の執筆・月刊技術士への投稿
 - 部会報は、2025年8月に出版予定
 - 個の技術士が月刊技術士を執筆することを推薦して応援
- 上記の環境整備・開催等に向けた準備や要領は、ハイブリッド役員会(定期は6回/年)で議論する。

行事計画(案)

No	項目	回数	記事
1	新技術士講習会	1回	4月25日に開催
2	全体会議	1回	リアル & Web開催(本日)
3	技術士のタベ(例会)	1回	ハイブリッド主体で例会講演会を開催予定
4	見学会	1回	リアル & WEB見学会を開催予定
5	部会報	1回	体制、運営方針、新幹事を紹介

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 (月)
 技術士説明(大学、企業など：訪問は要検討)

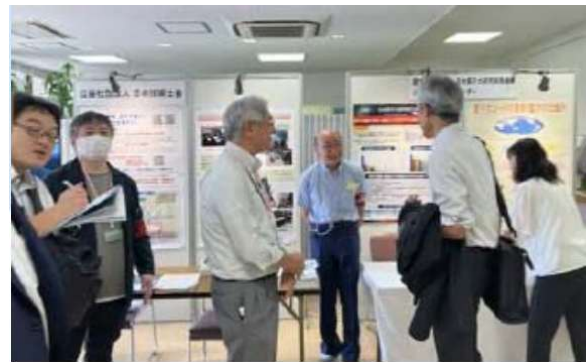
▲新技術士講習会(4/25) 春の原子力学会:リアル出展を計画▲
 ▲HB例会講演会① 保物研究発表会:リアル出展を計画▲
 ▲HB例会講演会② ▲HB例会講演会③
 HB:ハイブリッド ▲HB例会講演会④
 ▲リアル&Web見学会 ▲HB例会講演会⑤
 部会報▲ HB例会講演会⑥▲

5. 活動トピック

① 学会出展報告

2024年9月11日～23日、原子力学会秋の大会が東北大学川内北キャンパスで開催された。部会としては技術士の認知度向上、受験者数増加を目指し、昨年に引き続き現地でリアル出展を行った。

大型モニターをレンタルして、部会活動、技術士の説明などを放映し、来訪者の目を引いた。前日の準備も含め、部会員約10人が交替で説明対応を行い、約170名の若い技術者、研究者に部会の活動をアピールするとともに、技術士受験を薦めた。また、部会員同士の交流を図ることができた。



2025年度は9月の秋の大会(北九州国際会議場、AIM)で出展予定である。

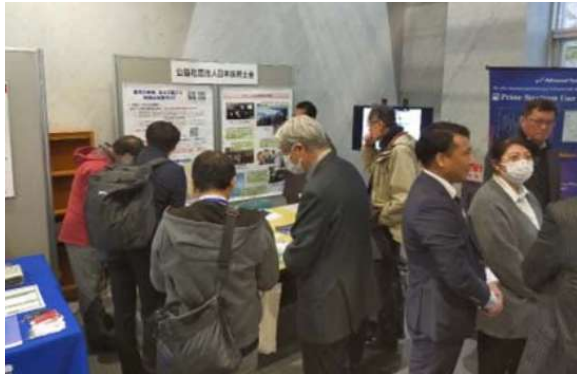
② 大学への技術士制度の説明会

技術士制度の学生への認知度向上と受験奨励のために、原子力・放射線関係の学科、研究機関のある6大学(九州大学、福井大学、近畿大学、京都大学、茨城大学、東京都市大学)の学生約140名に対して、技術士制度と原子力・放射線部会を紹介する説明会を実施した。

③ 保健物理学会との合同セッション

2024年12月16日～18日に大阪大学吹田キャンパスにて開催された保健物理学会に出展するとともに合同セッションを開催、部会の活動状況などを紹介した。従来やや手薄であった放射線利用分野の

技術者、研究者にも技術士資格をアピールすることができた。今後の受験者数の向上が期待される。



④ Web 見学会

【SPring-8】

2025 年 1 月 17 日に理化学研究所放射光科学研究センター大型放射光施設「SPring-8」での撮影会を実施した。その動画を編集し、9 月 13 日に Web 見学会を開催した。44 名が参加し、「SPring-8」の設備の概要と放射光を利用した様々な研究について知見を深めることができた。

2022 年度以降、見学会の Web 化、ハイブリッド化を試行してきたが、これらの作業を通じてノウハウが得られつつある。



今回の見学会の会員用動画は以下。

[<<Pe-CPD>> genhou240913](#)

【QST 那珂フュージョン科学技術研究所】

2025 年 6 月 6 日に QST 那珂フュージョン科学技術研究所での撮影会を実施した。当日の参加者は 6 名であり、Teams 中継のリモート見学会は行わ

ず、動画放映会に向けた撮影・録音のみ実施した。ご厚意で一般見学コースには含まれない、放射線管理区域である JT-60SA の本体室も見学・撮影させていただき、大変有意義な撮影会となった。

今後、動画を編集し、Web 見学会として放映会(技術士のタベ)を開催する予定。

6. 技術士試験合格者の紹介

技術士として社会貢献していきます

棚橋 裕樹

【三菱重工業(株)、2024 年度合格】

このたび、3 回目の挑戦で原子力・放射線部門の技術士試験に合格することができました、棚橋裕樹と申します。

これまでの挑戦を通じて、多くの学びや気づきを得ることができ、自分の技術者としての視野がより広く、深くなったと感じています。これからは技術士としての責任をしっかりと自覚し、社会に貢献できるよう層努力していきたいと思っています。

私はこれまで原子力プラントメーカーで電気計装設計を担当し、現在は部門のリーダーとして、各プラントの安定運転や安全性向上、運用改善に取り組んでいます。原子力は安定した電力供給が可能で、脱炭素社会の実現やデータセンター、半導体工場など新しい電力需要にも対応できる重要なエネルギーだと考えています。ただ、安全性や信頼性はもちろん、技術に関する説明責任をしっかりと果たすことがますます大切になってきています。技術士としての倫理観と社会的責任を大切にしながら、原子力技術の安全な活用に貢献していきたいと思っています。筆記試験に向けては、社内の教育資料を活用して原子力全般の知識を深めるとともに、原子力白書に書かれた課題等について技術士の視点でどう取り組むべきかを考えました。口頭試験対策では、社内の模擬試験や先輩方のご指導を受け、無事合格に



つなげることができました。

今後は、この経験を活かして、後輩や若手技術者の育成にも力を入れていきたいと思います。専門知識だけでなく、課題解決やリスクマネジメントの視点も含めた総合的な技術者の育成を目指してサポートしていきます。また、技術士を目指す若手への助言や支援も積極的に行い、組織全体の技術力向上に貢献したいと考えています。

さらに国内外の動向にも注意を払い、原子力分野の最新技術や規制の変化をしっかりキャッチアップして、実務に活かしていきます。カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー政策の中で、原子力が果たす役割を技術的に支え、より良い社会づくりに貢献していきたいと思っています。

これからもどうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

70歳での挑戦

弟子丸 剛英

【元原子力機構職員、2024 年度合格】

元日本原子力研究開発機構職員の弟子丸です。福井県敦賀市に住んでいます。

1977 年に大学を卒業後、当時の動力炉・核燃料開発事業団（現原子力機構）に入り敦賀市に建設中の新型転換炉原型炉ふげんに配属、被ばく管理や炉心管理を担当しました。その後高速増殖原型炉もんじゅに異動、建設工事も最終段階の時期で、冷却材に使うナトリウムや MOX 燃料の輸送に従事、試運転では、燃料装荷、臨界、送電に立ち合いました。1995 年のナトリウム漏えい、その後の対応、2010 年の試運転再開、長期停止による保守の不具合、2016 年には廃止措置の政府決定を経て、廃止措置と 30 年以上「もんじゅ」に携わってきました。

一昨年退職しましたが、原子力には関わり続けたいと思い、そのためには自らの技術力の維持や最新

の原子力に関する動向を確認・吸収する必要があると感じ、原子力学会誌や学会メール配信記事の購読等を行っていました。元来怠け癖のある性分なので、昨年1月何か目標を設定しようと思い立ち、20 年近く前に一次試験に合格していた技術士（原子力・放射線部門）の二次試験合格を目指すことにしました。たまたま、原子力学会の技術士講習会があり、受講したまではよかったのですが、技術士試験の過去問を見たところ、論理だった回答はもちろんのこと手書きで4問合計 5400 文字の記載が必要とのこと。記憶力に自信を無くしているのに加え、悪筆で、長年パソコンに頼っていたので、一旦はあきらめかけましたが、目標設定してしまっていたので、奮起。原子力学会 HP にある過去1年分の技術士過去問の解答を見ながら、まずは丁寧に長文を書くことの訓練を行いました。YouTube の技術士講座も見て、模範的な書き方も少し学び、過去5年の過去問をまず自分の考えで書き、解答例を見ながらポイントを押さえるということをし続けました。二次試験そのものは、いくつか想定していた問題でしたが、特に能登半島地震に関する設問について、記憶があいまいな点が多く、解答が十分できなかった点が悔やまれます。でも何とか70歳で合格でき、目標は達成しました。

現在、単発でいくつか原子力の安全や法令に関する講義をして、自らの現場での経験も踏まえて、原子力安全への向き合い方も伝えています。これから、高速炉も含めて新型炉開発が進むと期待されますが、更なる人材育成が求められるところであり、それに少しでも貢献できればと考えています。



原子力発電所の新規建設に向けて

田辺 匡亮

【東京電力ホールディングス(株)、2024 年度合格】

東京電力ホールディングス(株)青森事業本部の田辺と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私の経歴は、学生時代から原子力を専攻しており、東京大学大学院の岡・越塚研究室で次世代炉の炉心の熱流動をテーマに研究を行いました。

2005 年に入社し、初期配属は柏崎刈羽原子力発電所の燃料グループで、運転中のプラントの燃焼管理・制御棒パターン調整や定検対応・起動対応等を行いました。2011 年の福島第一原子力発電所事故後は、社内の事故調査チームに加わり、事故当時の資料の収集や社内関係者への聞き取り等を行い、事故報告書を取りまとめました。

その後、新規制基準の SA 有効性評価、設備信頼性・保全プログラム対応、海外情報収集(米国 EPRI 駐在)、リスク管理、核セキュリティ改善対応など、幅広い業務に従事し、業務経験を積んできました。現在は、青森県で東京電力東通原子力発電所の新規建設に向けた設計検討業務を行っています。

技術士の原子力・放射線部門は、当社では取得者が少ないですが、数年前に社内でも活躍する資格取得者の話を聞く機会があり、受験を志望するようになりました。受験勉強を通じて専門知識やコンピテンシーを学び、技術士としての基礎を身につけて、昨年度合格することができました。

原子力の仕事は分野の幅が広くかつ内容が深いため、今後も継続研鑽により専門知識をはじめ技術士としての資質を向上していきたいと思えます。現在の担当業務である新規プラントの設計検討では、安全性と経済性に優れた原子力発電所の建設を実現し、社会に貢献したいと思っています。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



原子力分野の技術士として誇りと責任感をもって

佐竹 秀和

【三菱重工業(株)、2024 年度合格】

昨年度の 2 次試験に合格し、この度技術士会に入会させていただきました佐竹秀和と申します。皆様、これからよろしくお願いいたします。

私は現在、三菱重工業(株)原子力セグメントに所属し、約

30 年にわたり原子力発電プラントの計装・制御システムの設計やプロジェクトマネジメント業務に従事しております。

今回技術士試験へ取り組む中で、改めて多くの気づきや学びがありました。ひとつは、これまでの業務経験をじっくりと振り返れたこと。一例として、入社後数年で事業者側(メーカーにとってのお客様)に出向する機会があり、お客様の目線で業務ができたこと、プラントの現場で仕事ができたと、そして直接官庁対応にあたったことは、その後の業務に大きく役立つ経験であったと気づきました。また、担当業務外も含めた技術動向や原子力規制動向へのアンテナがより高くなったこと。計装・制御システムの設計は、規制動向を把握することはもちろんですが、他部門や他分野の技術とも多くのインターフェースがあり、専門分野以外の技術の理解も重要です。そして最後に、脱炭素電源としての原子力発電の重要性や、安全を優先して業務にあたることの重要性を改めて再認識したこと。私が専門とする計装・制御システムは、原子力発電プラントの安定・安全運転を実現するうえで人の頭脳や神経にあたる重要なシステムです。技術士となった今、以前にも増して誇りと責任感をもって日々の業務にあたっております。

このように、技術士試験への取組段階にも多くの学びがあり、大事な経験となりました。そしてこれからも、技術士会の活動を通じて他分野も含めた技術知見を吸収できることを楽しみに、公共性の高い原子力分野の技術士であることに、誇りと責任感をもって研さんを続けていきたいと考えております。



どうぞよろしくお願いいたします。

原子力技術を通して社会に貢献したい

鈴木 創司

【東京電力ホールディングス(株)、2024 年度合格】

東京電力ホールディングス(株)の鈴木創司と申します。

入社後は柏崎刈羽原子力発電所にてトラブル対応業務に従事しておりました。その後、本社に異動し、柏崎刈羽原子力発電所



6 号及び7号機の新規制基準適合に係る設置変更許可対応、許可後の 7 号機の工事計画認可対応に従事したのち、現在は原子力部門内の経営企画業務に携わっております。

福島第一原子力発電所事故発生直後の 2011 年 4 月に入社しましたので、事故後に原子力業界で従事する者として、自己研鑽は義務と感じており、今回技術士に挑戦しました。

稼働していたプラントが順番に停止し、ストレステスト、新規制基準の策定、その適合性審査など事故後の原子力に対する変化を目の当たりにしてきましたが、合わせて感じるのは原子力技術の社会との関係、その影響力の大きさです。これらは、純粋な技術者としての力量はもちろん、その技術を取り扱う人間として信頼してもらえるか、社会情勢との関係も含めて自分の仕事をきちんと説明できるかという点が大切で、これはあるべき技術士像の一つと思っています。

まだまだ、その領域には到達できているとは到底言えませんが、日々近づけているか、自問自答しながら、原子力技術を通して社会に貢献してまいります。新参者ですがよろしくお願いいたします。

7. 会長表彰受賞報告、名誉会員証の受賞

佐川 渉

【佐川技術士事務所、2003 年 4 月入会、正会員、技術士(機械、総合技術監理、原子力放射線)】

この度、2025 年 6 月 16 日開催の第 67 回定時総会において黒崎会長より名誉会員証を授与されましたので、ご報告させていただきます。これも偏に部会長、幹事の皆様を始め部会員の皆様方のご支援の賜物と深く御礼申し上げます。



名誉会員は「名誉会員推薦規則(推薦基準)」第 2 条により、「候補者は、定款第 7 条に規定する正会員であって、毎年 4 月 1 日時点で満 77 歳以上である者の内、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 理事又は監事の在任期間が 1 期 2 年以上ある者
- (2) 地域本部長、部会長(部会長選出選挙で当選し会長より委嘱された者)の在任期間が 4 年以上ある者
- (3) (4) (5) 省略

と定められており、今回 18 名が推挙され現在の名誉会員数は 189 名となっています。

私は 2003 年 2 月機械部門の技術士試験に合格し技術士登録した後、2004 年に新設された原子力・放射線部門の第 1 回試験に合格し、2005 年 6 月原子力・放射線部会設立と共に幹事を務めさせていただきました。2007 年度の役員選挙に部会員の皆様の推薦と支援をいただき立候補し、2007 年 6 月から 2011 年 6 月まで 2 期 4 年間日本技術士会・理事を務めさせていただきました。

部会発足後 2 年も経たず原・放部会は日本技術士会においてはまだローカルな存在でしたが、2007 年 7 月 16 日の中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所の被災に対し、電気電子、機械、建設、原子力・放射線 4 部門の有志および会長・副会長・専務からなる復旧状況調査チームを構成し、2008 年 4 月と 2008 年 11 月の 2 度に亘り現地調査を行う(原・放部会からは各回 3 名参加)とともに、その結果を報告書にまとめ地元自治体や関係諸機関・メディアに発信しました。この活動は様々な分野の専

門家集団である日本技術士会の特長を生かすとともに、他の分野の技術士の方々との意見交換を通じ原子力を理解してもらうことに役立ち、日本技術士会において原子力・放射線部門の存在感を認められる機会になったものと考えています。

1 期目は、理事会において国際特別委員会委員、2 期目は、技術士(会)の知名度向上を目的として広報活動を戦略的に進めるための広報戦略特別委員長を拝命しました。技術士の受験者増加に繋がるよう、理工系学生、特にJABEE認定課程の学生、女子学生、女性技術者への広報活動を重点に取り組み新たな広報コンテンツの作成や試行を行いました。

当時は海外の多くの国で多数の原子力発電所の計画が進められ、我が国への期待も多く「原子力カルネサンス」と呼ばれた高揚期で、国内では規制制度の在り方についても様々な検討が行われていました。原子力安全・保安院の基本政策小委員会では設備・機器の構造設計に関し米国の事例を参考に外部専門機関を活用することが検討され、東大原子力法制研究会では技術士資格の活用について議論され、原・放部会でも 2009 年 1 月に「技術士制度活用 WG」を発足させ具体化について検討し報告書をまとめ関係先に提言してきました。部会発足以来重点目標として取り組んできた「技術士制度活用の具体化」に向けて展望が見えてきたちょうどその頃、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と福島第一原発事故により原子力の全てが問い直されることとなりました。

その後の部会活動については、福島事故後の大変厳しい状況の中、福島の復興に向けた支援と社会からの信頼回復に向けて部会長を始め一丸となって取り組んでこられてきたことに敬意を表します。今後とも原子力・放射線部会がますます発展することを祈念しております。

8. 統括本部委員会委員長就任の抱負

技術士活性化委員会 委員長を拝命して思うこと

阿部 秀明

【科学技術振興機構、2005 年度合格】

私は、2023 年 7 月に原子力・放射線部会の推薦を頂き、技術士活性化委員会に参加致しました。前期 2 年は業務支援小委員会の小委員長を務めました。今期は委員長を拝命しました。



皆様には、技術士活性化委員会の活動に日頃、ご理解とご協力を頂いておりますことに、深くお礼を申し上げます。

私は、この 2 年間、技術士活性化委員会で活動することで、技術士として成長できたと実感しています。ここでは、技術士活性化委員会の活動について紹介させて頂き、その後、私の技術士、技術士会への思いを述べたいと思います。

技術士活性化委員会は社会委員会の事業遂行のため、設置された実行委員会です。その大きな役割は、技術士が地域産業活性化に貢献できるよう支援を行うことです。地域本部・部会から推薦された 18 名の委員がおり、技術部門は 15 部門に渡り、日本技術士会の中で組織横断的な活動が可能です。その役割を踏まえ、技術士開業研修、技術研修をはじめとした研修会を開催し、会員に最新情報の提供を行い、交流の場を提供しております。

技術士開業研修会は毎年、入門コースと実践コースの 2 つを実施しています。入門コースは、半日開催で基本編、実践コースは、2 日間にわたる業務実践編です。いずれの講師も経験豊富な開業技術士であり、開業の経緯、苦労した点、ノウハウ、そして人生観などが披露されます。

技術研修では、講師はテーマに詳しい外部専門家と技術士です。テーマ実績としては、プロジェクト・プログラムマネジメント、カーボンニュートラル、知的資産経営があります。

また、前期は『技術コンサルタントガイドブッカー第 6 版』を作成しました。2025 年 4 月に日本技術士会ホームページ上に公開されております。

私は、技術士会のメリットは他部門の技術士と多くの、深い交流が可能なことだと思っています。これは私の技術士資格取得、活動の経緯と関連します。

30 年前の 35 歳頃、勤務先での業務は大変多忙で、やりがいもありましたが、原子力産業の一分野での活動に閉塞感を感じておりました。そのような時に技術士資格を知り、これは自分が目指すものだと感じました。地方在住で周囲に技術士は全くおりませんでしたので、一人で準備し金属部門の第一次試験を受験しました。合格後、東京での合格祝賀会に参加し、そこで金属部門で活躍されていた高名な技術士の方から暖かい激励を頂きました。

2001 年に金属部門で技術士の資格を取得し、日本技術士会に入会、併せて、在住県の技術士会に入会しました。そこで先輩技術士に誘われて、部門の異なる有志 20 数名の技術士勉強会に参加しました。毎月 1 回、各部門の個別技術の学習だけでなく、技術者倫理について日本技術士会発行のテキストを用いて輪読、意見交換を行いました。皆で勉強会の成果を倫理論文集としてまとめたこともあり

ました。
この勉強会で、原子力発電の技術と安全取組を紹介した際に、航空・宇宙部門の経験豊富な技術士の方から、事故時の社会的な影響が甚大な原子力発電は、何をさしおいても安全の追求に努めるべきだ、との直言を頂いたのは 20 年前のことでした。この勉強会参加は勤務先が変わるまで 15 年続き、現在の自分の大きな財産となっています。

技術士活性化委員会活動では、研修会などを通して、多くの技術士と知り合うことができ、深い交流が続けている方もおります。官庁や諸団体とつながる機会も得ました。これらは、自身の技術士としての能力向上につながったと実感しています。

こうした思いから、技術士活性化委員会の活動が会員同士の技術部門を越えた交流の助けとなるように努めています。どうぞ、これからも部会と同様、技術士活性化委員会の活動・行事への積極的な参加をお願い致します。

~~~~~

発行：原子力・放射線部会

編集：総務広報班

発行日：2025 年 9 月 17 日